**CCDO協働事業委員会**

2020年11月10日（月）18:30〜20:45　（Zoom会議）

出席者: 9名

委員：　岩佐(委員長)／渡辺（副委員長）／和田／佐藤／佐伯／安楽

オブザーバー：　安藤会長／鯉江（広報委員長）／黒田（副事務局長／議事録作成）

**○メッセナゴヤへの出展について**

出展者登録ページの内容確認

（佐藤委員から説明）

出展者登録は最大５名までできる。登録者はオンライン名刺を作成し、メールを登録。メッセ来場者に対応する

登録者：岩佐(委員長)／渡辺（副委員長）／和田／佐藤／鯉江（広報委員長　広報の立場で補佐）

（注）渡辺：シリーズセミナーの担当　和田：デザイン相談の担当

メッセナゴヤ オンラインページの掲載内容

1. 企業PR

 CCDO概要とロゴ

　　　見どころ・ポイント〜説明文は簡潔にする。文言の修正

　　　シリーズセミナーの紹介動画（ビデオ）に誘導する案内を載せる。

1. 製品・サービス情報

　　　**デザイン相談**

　　＊申し込み方法をどうするか？

　　　メッセの開始が11/16なのでCCDOのHPに新たに登録フォームを作成する準備時間がない。

現在CCDOのHPのレスポンシブデザイン化は終了しているがメール設定の変更などまだ終了していないので、今

新たな登録フォームを作成するのは無駄が多く現実的でない。

　　　→ CCDOのHPに現在３種の登録フォームがある。（<http://www.ccdo.info>）

（デザインシリーズセミナー／ナイトトーク／協賛広告掲載募集）

協賛広告掲載募集のフォームを改良して「メッセナゴヤ　デザイン相談」の申し込みフォームに変えることは可

能。その方法がコスト・時間から見て最も効率的。

→　CCDOのHPの登録フォームの改良で作成する。申し込みは登録フォームのみに限定。

（メール添付やFAX送信は今回採用しない。）

項目の原稿は佐藤委員が作成し、鯉江広報委員長に連絡

　＊申し込み方法の詳細説明〜資料PDF

 デザイン相談の説明テキストに資料PDFへ誘導する内容を追加。

　　左側の画像イメージは挨拶文より申し込み方法のプロセスを図式化したページの方がイメージは伝わりやすい。

　　→画像イメージ〜「デザイナー活用による、商品づくりがビジネスをリードする時代です。」のキャッチコピーとプ

ロセス図を組み合わせた内容に修正。

　　資料PDFのお申し込み表は使用しない　→　登録フォームの入力画面イメージに変更

　　登録フォームの項目はできる限り少なくしてコンパクトにする。

　　　**デザインシリーズセミナー**

　　セミナーのチラシイメージは昨年度のものなので、来場者が混乱しないようにした方がよい。

　　→これまでの開催イメージのコラージュなどに変更。

　　動画（Youtubeにリンク）は２本アップ。

　1. CCDO紹介（以前、しんきん用に作成したパワーポイントをリメイク）

　2. デザインセミナーのPR動画（渡辺委員のセミナー紹介）

　　　→渡辺委員の挨拶（案）を2分間程度に修正

1. アンケートの内容

　　　文言の修正、項目の修正〜和田委員と佐藤委員で修正

　　　CCDOのオンラインメッセ内容についての評価／デザイナーへの要望など

1. 出展者ページへのログイン

　　　出展者ID（岩佐委員長のメールアドレス）とパスコード（名商から割当）が必要

　　 会期前に各委員がログインできるようにする。

**○デザインセミナーについて**

（渡辺委員より）

●日程

　2月〜３月で想定している。

　講師の講演を事前ビデオ撮影する場合、準備期間が必要。

　ライブ講演の方がよいのではないか？

　約１時間の講演を編集するのはかなり時間と労力がかかると思う。

　会場や条件が整えばZoomのライブ講演の方がよい。

　→　その場合、会場をどこにするか。

　　　各講師の事務所へお尋ねして渡辺委員によるインタビュー形式にするとかはどうか？

　　　全ての講師がその条件でできるかはわからない。

　　　２台のノートPCを近くに置くとハウリングの問題もある。

　　　事前の予行演習は必要。

　　　オンラインセミナーの経験者を講師に選ばないとスムーズにいかないかもしれない。

　→　講師と資料（パワーポイントなど）の見せ方は？

　　　2画面にするとか、切り替えなどの方法は？

いくつか参考事例を見てイメージを固めた方がよいのではないか？

　　　大学の講義の場合は話す人を大きな画面、聴講者を小さい画面で映すなどしている。

　　　資料はPDFを共有画面で見せ、必要に応じて切り替えながら進める。

　　　Zoomの管理者が画面をコントロールすればある程度スムーズに進められる。

　　　ハウリングはPCに直接繋ぐピンマイクなどを使えばかなり解消できる。

→　運営方法はさらに詳細を検討し、各講師の条件に合った方法を選択。

　　　　講師と相談。

→　（例）経営者にオンラインセミナーの講師をお願いしているケースでは、スタップ３名ぐらいで先方の会社に

伺い、１名は司会、１名はコンピュータ操作、そのほか画面には映らないインタビュアーを用意する場合もあ

る。そうした方法だとPC1台で可能でハウリングの心配もない。

　　　　講師と司会＆インタビュアー、コンピュータ操作は１ケ所にいた方が処理はしやすい。（トラブル時の対応が

しやすい）

　　→　講師の講演からグループディスカッションへの移行をスムーズにする。（休憩時間の設定）

　　　　進行についてマニュアルをきちんと作成しておけば問題ないと考える。

　　　　グループディスカッションのファシリテーター用の台本作成。

　　　　当日のみ参加するファシリテーターには運営がかなり難しいのではないか？

　　　　ファシリテーターだけで事前に打ち合わせや資料の確認リハーサルが必要。

　　　　ファシリテーター用マニュアルは、大学のセンター試験の監督員マニュアルのように、タイムスケジュールと

作業内容が詳細に示されチェックシートも入っているようなものが用意できれば理想的。

 →　2月開催には準備期間が不足。シミュレーションをして検討すべき。

　　　2月〜３月は年度末や入試シーズンで講師候補も多忙な時期で、厳しい。

　→　プロモーションの時間もない。参加者募集に必要な時間が不足。これまで名古屋商工会議所経由でできていた

PRもできない。新たにさまざま経済団体や関係機関への後援依頼や広報協力をしなければならない。

日程は再検討　→　5〜6月ぐらいで再検討

メッセナゴヤでの案内に対してどのような反応があるか。

メッセナゴヤでコンタクトしてきた方へのアプローチ。

　　　講師、参加者にとって参加しやすい時期。

　　　プロモーションの時間をしっかりとってスケジューリングする。

　　　協同事業委員会の会議出席数も限られているので、今後の運営が厳しい。委員の参加・協力を促す材料が必要。

　　　講師を決定するのが先決。

　（安藤会長）来年度に延期するのであれば、今年度内に一度CCDO内で会員向けの予行演習的な無料セミナーを実施

してはどうか？

　　　　　　　過去に実施したテーマでやってもよい。

　　　　　　　会場を広告デザイン専門学校で行うことも可能。（夜間の場合、提供可能）

　　　　　　　→　実施する方向で決定

　　　　　　　　　年度内セミナーの講師はCCDO会員に無償でお願いする。（予算がない）

●講師について

　講師の推薦

（黒田案）

岡田　心（プロダクトデザイナー／大同大学情報学部准教授）

舟橋　慶祐（プロダクトデザイナー／大同大学情報学部准教授）

後藤　規文（プロダクトデザイナー／（有）後藤デザインオフィス　代表取締役）

　 鈴木　光太（（名古屋造形大学ライフデザインコース准教授／デザインスタジオカッパ）

矢野 まさつぐ（グラフィックデザイナー／株式会社レンズアソシエイツ代表取締役

稲波　伸行（デザインアドバイザー／株式会社RW　代表取締役）

（岩佐案）

山村真一（（株）コボ代表取締役）

（安楽案）

　上田　聡司（ブランディング）＊前回講師

（渡辺案）

　向井　真人　(CAC,CDA)

　渡邊　潤一　(愛知建築士協会)

　原　愛樹 (Sight Concept Planning) ＊前回講師

（佐伯案）

　　水鳥 智広（名古屋造形大学講師／AquaDesignWorks　代表）

（安藤案）

丹羽　浩之　（インテリアデザイナー／JID会長／（有）ヴォイド代表）

４０歳代ぐらいで活躍している、これからのデザインを見据えて語れる、デザイナーだけでなく客観的に提案できる分

野の人材も良い。

４名の講師を選ぶとすれば８名ぐらいは打診する候補を上げた方がよい。

講師候補から打診する候補を絞り込む。

セミナーの第１回〜４回の流れの中で適材適所を検討し素案を作ってから打診する。

→渡辺委員がタタキ案を作り、次回会議で決定する。

○会議の決定事項

　＊年度内には予行演習としてCCDO会員向けのセミナーを実施する。

　＊シリーズセミナーの開催は次年度４〜6月の間で実施する。

　＊中部の関係機関に後援や広報協力、参加協力の依頼をする準備を進める。

　＊Zoom運営については佐伯委員、安楽委員に協力してほしい。広報に関しては鯉江広報委員長の助言・協力のもと

　　進めたい。

次回　協働事業委員会

11月19日（木）18:30〜　Zoom会議

議題：講師の選定を中心にする

講師候補　別添資料参照　（講師候補リスト.xlsx または　講師候補リスト.pdf）